まちづくり news Letter

～皆さんがもっともっと大分県が好きになりますように・・・『まちづくりニュースレター』をお届けします～

１．まちづくり事例紹介

大分県内では、まちづくり事業にて、２９地区でまちづくりが進められています。
今回は、『児童が主役』の公園づくりをしている「千怒拠点地区」をご紹介します。

千怒拠点地区（津久見市）

千怒拠点地区は、まちづくり交付金（通称：まち交）にて、Ｈ１７～Ｈ２１年の５ヶ年での整備を行っています。

区画整理事業を中心として、道路・公園等の整備を行っていますが、「世代間を超えた交流のできるまちづくり」を目指し、メダカ育成交流事業に力を入れています。メダカ育成交流事業は、区画整理事業により棲みかを失うメダカを救出したいという地元小学生の願いをきっかけに、メダカを通じて地元小学生と住民の世代間を超えた交流を図ることを目的に実施しています。区画整理事業が完成することに伴い、１０年以上にわたって避難していたメダカが戻れるよう「めだか公園」の整備を行います。

現在、福岡大学景観まちづくり研究室の先生とスタッフをファシリテーターとして招き、ワークショップ手法を用いて、地元小学生と住民の参加のもと、「めだか公園」づくりをすすめています。公園は、来年の３月に完成し、児童たちは公園づくりも手伝う予定です。

区画整理事業を中心とした「ハード事業」とメダカ育成交流事業の「ソフト事業」が相乗効果を発揮し、魅力あるまちづくりになることを期待しています。

▲一時避難させるための「メダカのお引っ越し」

▲愛着が持てる公園を造りたいと熱気むんむん

▲児童らの意見を踏まえた公園の模型が完成

２．別府の湯けむり情緒を考えるシンポジウム

別府の湯けむり情緒を考えるシンポジウムが８月２５日、別府市鉄輪上の冨士屋ギャラリー「一也百」にて開催されました。主催は、地元住民・学識者・行政などで構成する「別府の湯けむり情緒を愛する会（会長：モンテ・カセム立命館アジア太平洋大学長）」で、当日は会場に約１００名の市民や関係者が参加しました。

モデレーターは、立命館アジア太平洋大学のモンテ・カセム学長。パネリストは、広瀬勝貞大分県知事、浜田博別府市長、蓑原敬ＩＮＴＡ副総裁、加藤進九州運輸局企画観光部長、甲斐賢一ホテル風月HAMMOND社長、安波治子富士屋ギャラリー「一也百」代表の皆さんでした。

別府の素晴らしい「湯けむり景観」を守り、活かしていくためには、「無電柱化の推進」や住民が主役のまちづくりを「産・官・学・民」協働で、取組んでいくことが大切であるという意見が出ました。

▲日本最後の「電線病」がなぜなくならないのか？と問題提起するカセム学長

▲まち全体のデザインを考えることが重要であると訴える蓑原副総裁

３．おおいたらしさ景観創出事業

▲魅力を発信し続けることが大切と加藤氏

▲加藤氏の講演を熱心に聴講する受講生
まちづくりは「小さな小さな成功の積み重ねを関係者で共有することが重要」

県内の景観・まちづくり活動の核となる人材育成・啓発活動を目的に、「おおいたらしい景観・まちづくりとは何か？」を大きなテーマとして、通年で講座・フォーラム等を開催しています。今回は第３回景観・まちづくりコンダクター育成講座をご紹介します。

青森新町商店街を蘇らせた商業者、加藤博氏をお招きし、「にぎわい景観の創出～商店街活性化と脱・空き店舗～」と題し、９月４日、大分市のアイネスにて講座を開催しました。県内各地の受講生や一般聴講の約１５０人が参加するなかで、加藤博氏は…

→『人材育成、特にまちづくりリーダーを育成することが重要である』
→『やる気での取り組みはダメ。やる気はみんな持っている。“本気”で取り組む必要がある』
→『関係者と深堀の議論を徹底的に行い、魅力を生み出してほしい』

と、熱く熱く語っていただきました。

とても有意義で大好評の講座となっていますので、ぜひ皆さんご参加してみてください♪♪
☆次回の講座は、12月４日（金）に開催予定です☆

＜編集後記（担当：浅井記者）＞
まちづくり関連のご質問やご相談がありましたら、まち班までお気軽にご連絡ください。
まちづくり3人衆（津末、浅井、辰本）がお待ちしております。
また、まち班のHPでも、まちづくり情報を発信していきますので、ぜひご覧ください。

↓まち班のＨＰへアクセス↓
大分県　まちづくり推進班　検索

企画振興部　景観自然室　まちづくり推進班　編集・発行（2009.１０）　Ｖｏｌ．５９

次号発行予定は、2009.１２です。